2021年合格目標・TAC行政書士講座　オンラインセミナー

# 就活に役立つ！

# 学生のための

# 行政書士ガイダンス

2021.4.2

# セミナーの内容

セミナー本編

TAC行政書士講座　小池 昌三 講師

1　行政書士とは
2　行政書士資格取得⇒他資格に生かす
3　行政書士資格を就職に生かす
4　TAC受講のメリット（ライブ＆Web）
5　質疑応答（皆様の疑問点解消）

# 1　行政書士とは

「行政書士」は、**独立開業系**の**国家資格**

「行政書士」は、国民・行政のパイプ役の**法律家**

「行政書士」は、国民にもっとも身近な「**街の法律家**」

「行政書士」は、**予防法務家**

# 行政書士の仕事

①書類作成業務

②許認可申請の代理

③相談業務

# ①「書類作成業務」

書類の作成代理人として、法的問題点が起こらないよう、予防法務的視野に立って契約書等の作成をしていきます。
行政書士は、以下の書類について業務として作成することができます。

## １）国や地方公共団体など、官公署に提出する書類

宅建業許可・建設業許可・会社設立・帰化申請・風俗営業許可等

## ２）事実証明に関する書類

内容証明郵便・財務諸表・会計帳簿等

## ３）権利義務に関する書類

契約書・遺言書・遺産分割協議書・示談書・会社定款等

# ②「許認可申請の代理」

作成した書類を官公署へ提出する手続きについて、依頼主に代理して提出を行う業務です。

# ③「相談業務」

行政書士は顧客から依頼された**書類作成について相談**に応じることが業務として認められています。

企業の経営・法務相談といった**コンサルティング業務**など、内容は様々です。

最近の行政書士は書類作成に伴う相談業務を通じて、顧客が抱える問題を**法的にアドバイス**したり、**新規ビジネスの提案**をしたりなど、コンサルティング業をメインとする人も多くなっています。

# 行政書士試験の概要

## 試験概要

- 試験日　例年11月第２日曜日
- 試験時間　13時～16時（３時間）
- 受験資格　どなたでも受験できます

## 出題形式

- ５肢択一式、多肢選択式、記述式
- 全60問
- 合格基準　300点中180点

## 出題内容

- 基礎法学　（択２）
- 憲法　（択５　＋多１）
- 行政法　（択19＋多２＋記１）
- 民法　（択９　＋記２）
- 商法会社法　（択５）
- 一般知識　（択14）

# ２　行政書士資格取得
# ⇒他資格に生かす

「行政書士」⇒法律系資格の登竜門（試験科目の共通性）

公務員・宅建士・司法書士・司法試験

「行政書士」⇒経営コンサルタント（職域を広げる）

社会保険労務士・中小企業診断士・簿記

# トータルビジネスケア
# ワンストップサービス

相談 → 会社設立（起業支援）

会社運営
（経営支援・労務管理）

社会保険労務士　中小企業診断士

→ 顧問

行政書士

# 行政書士資格取得　から
# 他資格取得へつなげる学習上のメリット

① 試験科目の類似性

② 学習方法の類似性

③ 学習時間の短縮

# ３　行政書士資格を就職に生かす

「一般企業就職」　⇒　法務部・営業部・人事部

## コンプライアンス

## （法令遵守）

# 「一般企業就職」において

★お客様にとってのメリット

法律問題に対する不安⇒お客様への安心感につながる。

★企業にとってのメリット

企業活動には常に法律問題がついて回る。

法律知識を持つ社員を育てることには時間がかかる。

⇒行政書士資格で法律知識が担保。大幅なコスト削減。

# その他の就職

★行政書士事務所

規模の大きい事務所も増えている。即戦力。

★司法書士事務所・法律事務所

法律補助者として勤務。将来開業への人脈づくり。

★社会保険労務事務所・税理士事務所

ダブルライセンス取得により職域を広げる。

# TAC受講の

# メリット！

① 効率的なインプット内容

② アウトプット教材の充実

③ 受講形態の柔軟性

# ① 効率的な

# インプット内容

- 最小限の努力で最大の効果
- 180点＋αで効率的合格
- とことん効率性重視

# ② アウトプット教材の充実

- 実力完成講義、記述対策講義
- 過去問の徹底攻略
- ミニテスト・科目別答練
- 本試験形式の直前期の答練

# ③ 受講形態の柔軟性

気になるコロナ禍における

受講形態

- 教室生のメリット
- 通信生のメリット

# 教室生のメリット

- 学習の強制力
- モチベーション維持
- 即時の質問解消
- 教室に行けない場合はWeb講義視聴
- 常時換気、受講生・講師マスク着用、手指消毒、席を間引き

# 通信生のメリット

- Web講義は繰り返し視聴可能
- 教室講義をそのまま収録
- 質問メール回数の多さ
- コンテンツは教室生と同じ
- スクーリング制度
- 教材は郵送